

校長室から

「名前を覚えることの効用」

気の早い台風2号には心配させられました。ちょうど週明けの月曜日に、まだ強い風と雨が残り、生徒たちの通学を案じていました。無事で何よりでした。

さて、先日の朝、こんなことがありました。PTAの皆様には街頭指導に立っていただいた日で、お礼を言おうと学校周辺を歩いていたところ、2年生のある男子生徒に出会いました。その生徒に私は、「〇〇くん、おはようございます」と声を掛けました。するとその子は、「あつ、おはようございます。校長先生、僕の名前を覚えていただいてありがとうございます」とうれしそうな顔で言うのです。

私は、そんな答えが返ってくるとは思いませんでした。ただ、その生徒の名前を知っていたので、名前を呼んであげただけのことです。そのことがその生徒には大変うれしかったことを知り、私までうれしくなりました。教師として、生徒の名前を覚えてあげることの大事さを、改めて思い知らされました。

親からもらった大切な名前です。どんな子にも親や家族の願いが込められています。大きな学校ではありますが、また年ごとに記憶力に自信がなくなっている私ですが、生徒が喜んでくれるならと、ひたすら名前を覚えるように努力をしていきたいと思っています。

どんな人にも名前がある。そこには、深い深い愛情が込められた歴史がある。それを忘れてはならないと思った、すがすがしい朝の出来事でした。〇〇くん、ありがとう。

平成23年6月1日



早いもので、もう6月。
3年生は、最後の大会が
やってくる。
頑張れ丸中！